

# 住民参加で 「外出支援の活動」をつくる

---

認定NPO法人 かながわ福祉移動サービスネットワーク

関東運輸局 地域公共交通マイスター

清水 弘子

# 地域のニーズはどこにあるか

---

- 高齢者実態調査から見る現状

- ・外出をあきらめている現状・意欲の低下はどこから来ているのか
- ・通院や日常の買い物だけができれば元気になれるか

- 住民は何に困っているかを見極める

- ・住民の「要望」ではない、「困っていること」を引き出す

- 行きたいところがある、行きたいところへ行ける＝セット提案ができてこそ！

(2016年 くらしの足をみんなで考えるフォーラムより)

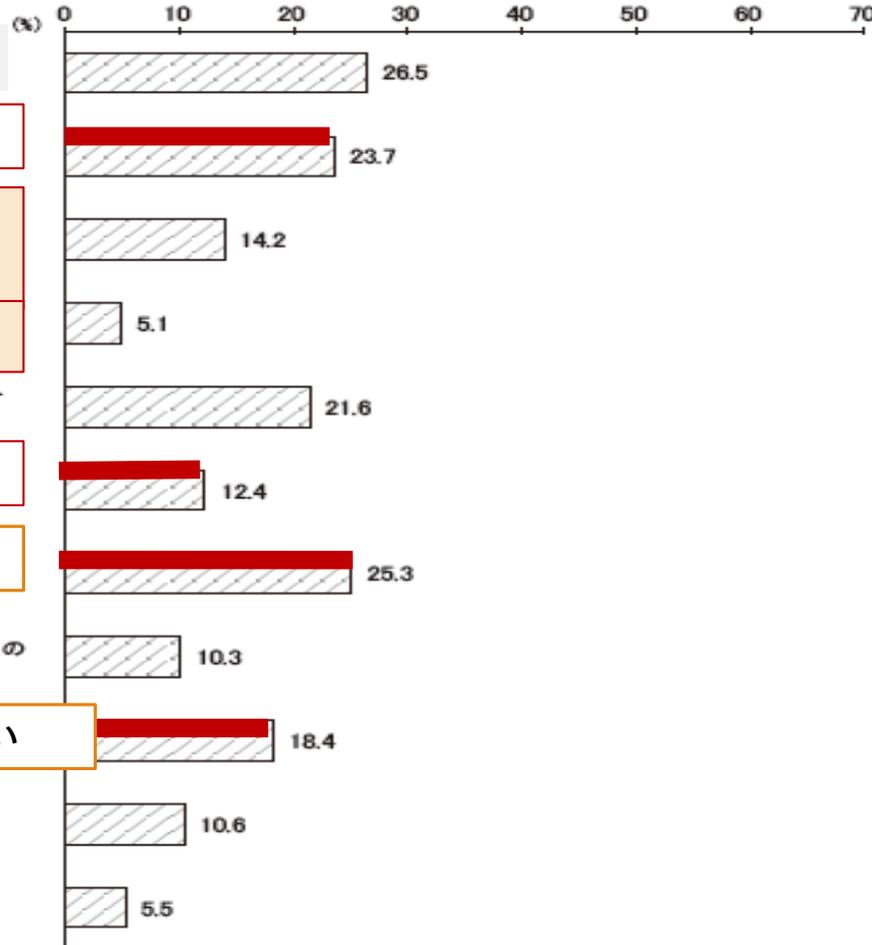
# 高齢者調査から見えること 横浜市高齢者実態調査H26

## 要支援

## 一般55～64歳

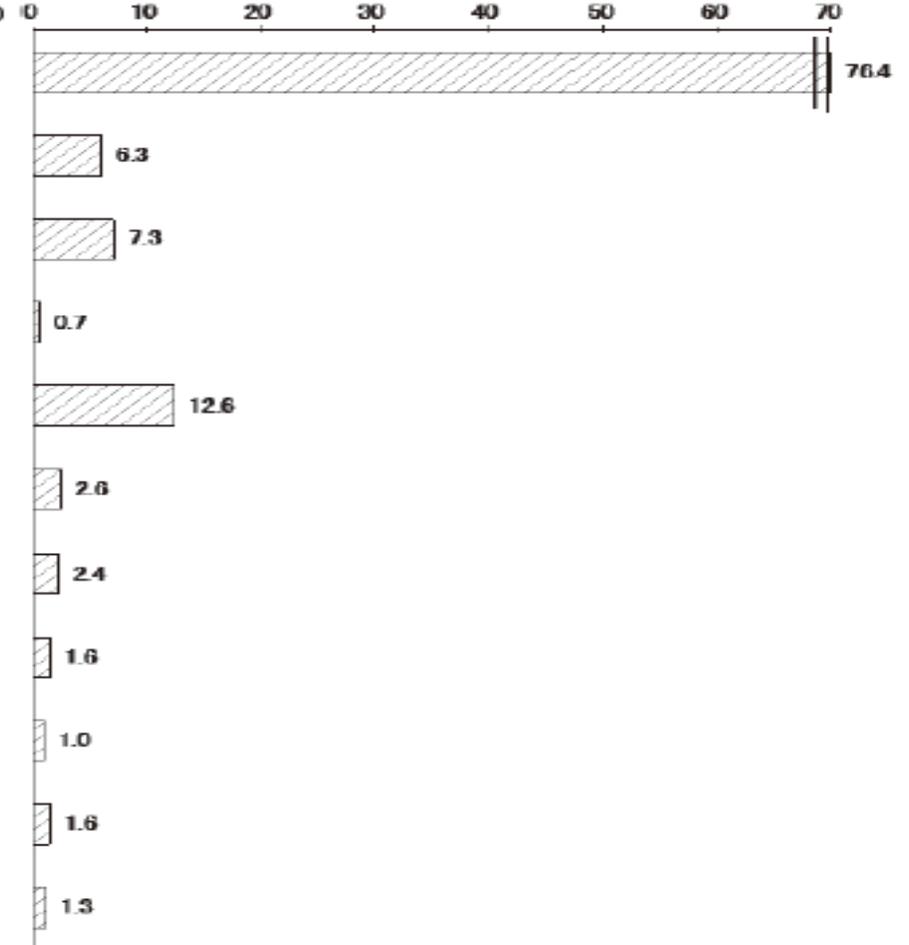
問41 外出についての意識(複数回答)

TOTAL n=565



問36 外出についての意識(複数回答)

TOTAL n=1,296



特に負担に感じない

外出はおっくうで好きでない

行く場所や用事もないので  
外出したいと思わない

外出の楽しみがない

外出するより、家にいて過ごす  
方が好き

交通不便で外出が負担に感じる

坂が多く外出が負担に感じる

トイレの心配があり、外出するの  
が負担に感じる

体が不自由で外出しようと思わない

その他

無回答

# 高齢者調査から見えること さいたま市(一般高齢者)

## ●外出の頻度:

週に2~3日 **32.7%**(一番多い)

**週に1日あるいは1日未満 15.1%**

## ●外出を控えていますか

はい **16.6%**      いいえ **82.0%**

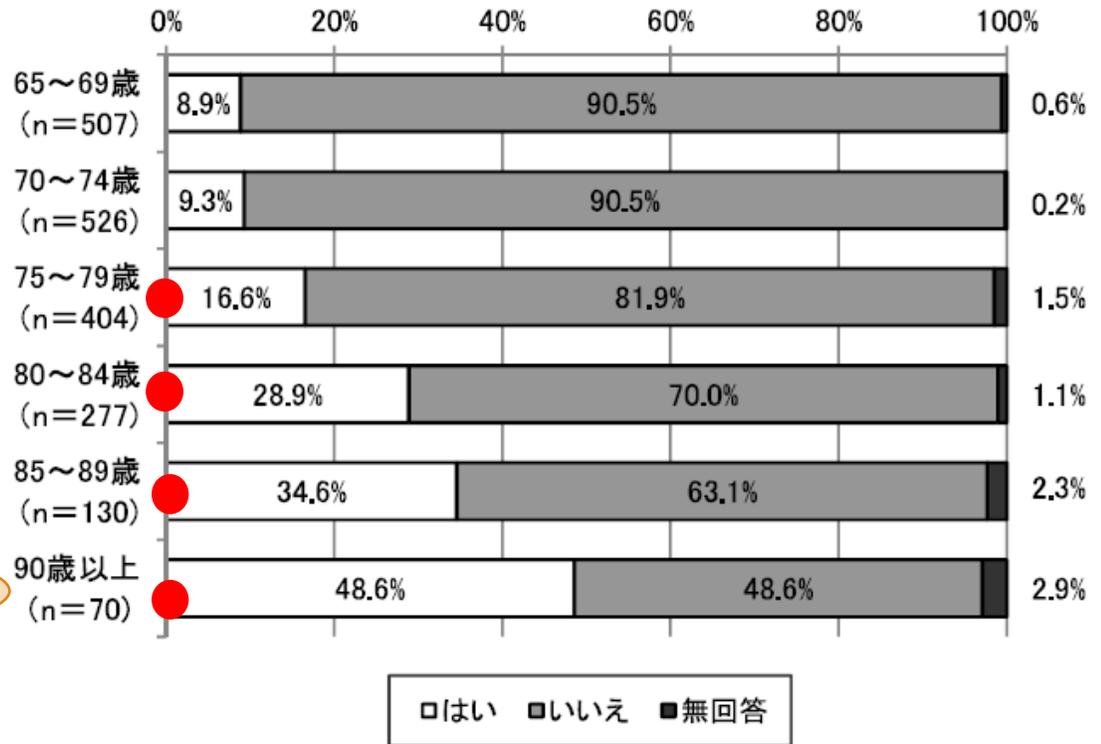
(理由: 病気や足腰の痛み70.6%、行きたいところなし)

## ●家族等の付き添いなしで公共交通で外出

**出来ない、出来るがしていない 10.4%**

## ●「外出を控えているか」と「年齢」のクロス集計

\* 年齢が高くなるほど外出を控える傾向がある



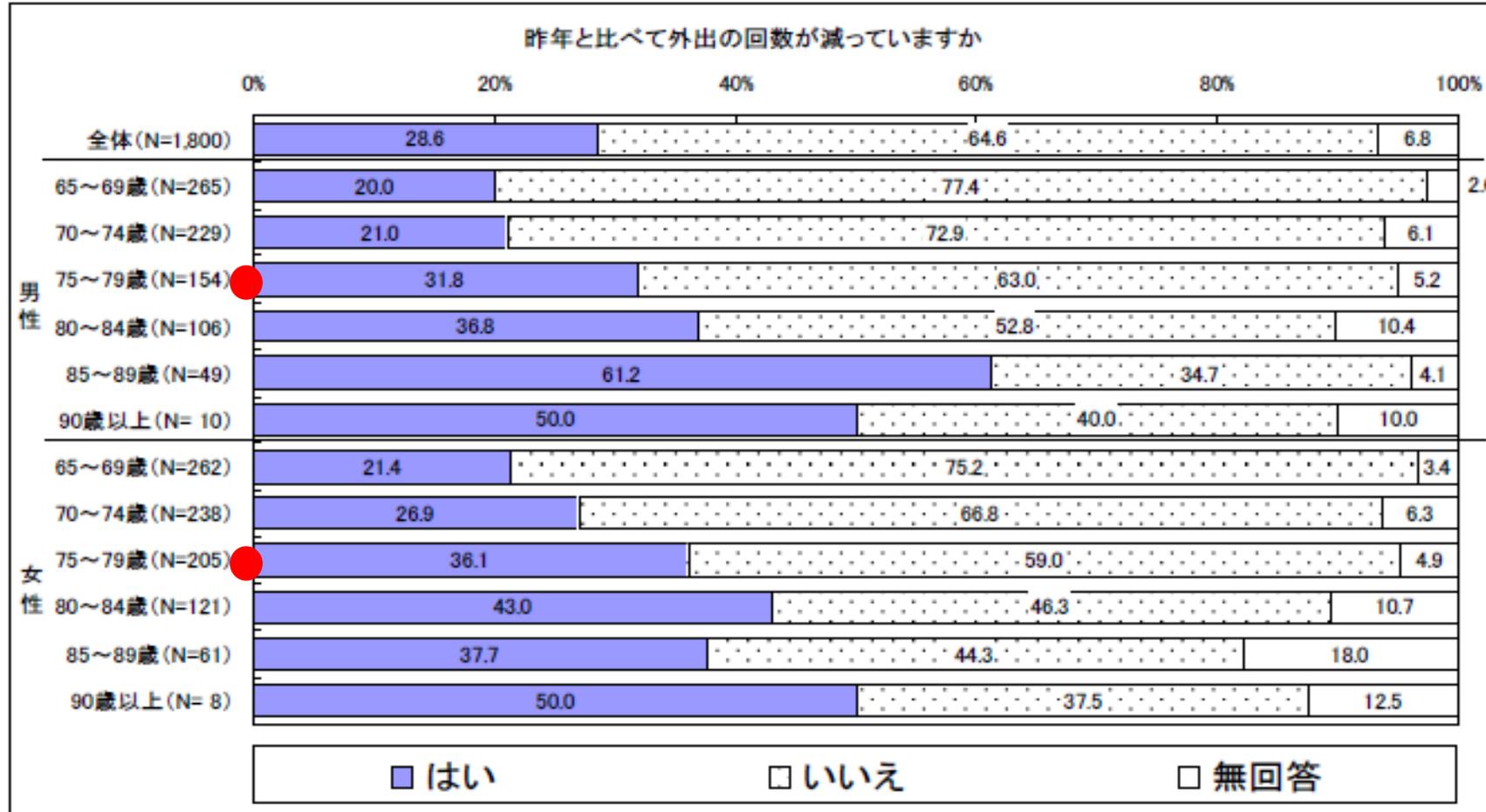
高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定のための  
アンケート調査報告書より

# 高齢者調査から見えること 岐阜市高齢者実態調査H26

## 一般高齢者

■昨年と比べて外出機会が減っているかの設問に・・・

「はい」28.6%、「いいえ」64.6% 男女とも高齢になるほど外出の回数が減る傾向が見られます。



### ●要支援の高齢者では

#### \*外出の手段は

- ・路線バスなど 16.8%
- ・人の車に乗せてもらう 50.9%

#### \*外出に困っていること

- ・バス・電車が使いにくい 22.8%
- ・介助者がいない 18.0%
- ・外出しないのでわからない 27.0%

# 地域のニーズはどこにあるか

## 【被災地での事例】

傾斜地の坂の上の仮設住宅  
坂の下を走る地域循環バス。降りてからの坂が高齢者にはつらく、重いものは運べない状況だった

➡車のある住民にボランティア送迎を打診したところ、ドアtoドアの送迎が始まった。

「今日は孫が来るから、ジュースと果物を買った」という高齢者の笑顔。



## 【路線バスの工夫】

ニーズに合わせた事業

不採算な路線は切りたい・・・、しかし、山の上の住民(特に高齢者)のニーズに応えたい。

➡山の上の住民が乗った時だけ、回送ルートとして、山の上の住宅地を走る。

通常の路線ではないので、いわば「デマンド」!



# 地域のニーズはどこにあるか

## 【農業から引退した高齢者のために考えたこと】

農地を人に貸したり、若い人に託した高齢者が引きこもりがち。  
そこで考えたのが、住宅地・まち・畑を結ぶ住民運行のワゴンバス。  
畑に寄り集まって、話をする、  
作物の育ち具合を見る、若者を指導する・・・。



## 【自治会が走らせる地域循環ワゴン車】

自治会長「交通をつくっているのではない。引きこもりの高齢者を外に出したいんだ。」「顔が会ってコミュニケーションが生まれると、災害時の避難にも役立つ！【面識社会の構築】が目的だ」

# 地域のニーズはどこにあるか

- 外出をあきらめている
  - 行きたいところがない
  - そもそも情報がない
- バスはどこを走っているのか知らない、出かけても楽しむ場所がわからない

交通事業者  
と協働

事業者では  
できない場合

住民運行

住民主導で交通事業者と協働で  
つくる交通

徳島市・応神ふれあいバス

川崎市・やまゆり号...

公共交通空白地有償運送  
たすけあいの自主運行

大和市・のりあい

横浜市・菊名おでかけバス...

## ■地域のくらしの足を住民参加でつくる

---

\*\* 県との協働事業で取り組んだ県内の事例など \*\*

# 住民は地域の移動ニーズに応じて どんなサービスをつくってきたか



■ **移動サービス**  
道路運送法79条登録  
「福祉有償運送」  
車を使った<1対1>の  
送迎サービス



■ **ボランティア送迎**  
登録が不要な地域活動  
自治会などの地縁組織  
や地域の有志が運行

■ **徒歩や公共交通を使って**  
歩いて行ける学校等への送迎  
バスや電車を使って  
の送迎など  
ちょっとした  
ボランティア!



登録不要の地域のたすけあい活動

# 移動サービス（福祉有償運送）とは



## ●「介助と運転」がひとつながりとなったサービス

必要に応じて、着替えのお手伝い・車イス介助  
外出先でのトイレや食事の介助など

\* 行き先に制限はありません

## 移動サービスの事例

# 高齢者 日常生活の支援(通院や買い物)



- 家族に代わって通院の付き添い、医師の診断を家族に知らせる。
- 美容院に行ったり、食料品を買いに行ったり、ふつうの生活をサポートする。

# 移動サービスの事例

## 車イス対応・身体の介助



福祉有償運送の利用対象者は

- ・要介護・支援認定者
- ・障がい手帳保持者（身体・知的・精神）

制度の則り登録して活動する。



- 車イスがそのまま乗れる福祉車両も普及してきました。
- 介助は、見守りのレベルから、かなりの介助技術を必要とする場合もあります。
- トイレ介助、食事介助、車イスごと段差や階段の昇降をすることもあります。

# 公共交通空白地有償運送の事例 淡河町ゾーン・バス



## 神戸市北区淡河町

神戸の街から六甲山を超えた山間地

★経費確保は難しいが、バスを走らせることの「その先」にあるものを大切に考えて活動を進める。

- 高齢者の足の確保ために検討を始めた  
運行主体は ●NPO法人 上野丘さつき家族会
- 過疎地有償運送を実施  
1回200円...バスの半額程度 \* 無償運送と迷ったが...
- 運行 2009.3月開始  
定路線 4回/1日、イベント送迎  
500人/月 位が利用している
- クルマ  
福祉施設のクルマや自家用車で運行  
維持費の一部とガソリン代実費を負担  
ただし、きれいに清掃して返す(貸し出す側にもメリットを)
- 経費について  
運賃と地域の人のカンパ、市よりの補助金はなし

## もう1つの移動困難 ～買い物難民は600万人という推計

高齢・障がいがあることでの移動制約に加え、

### ■ 環境的・社会的要因による制約

山・坂などの地形、住宅の郊外化、路線バス撤退による交通不便などにより、外出が困難な状態となり、移動弱者及び買い物弱者に陥る



都市部でも交通不便地域が各地に存在する・・・

地域交通の課題は「中山間地のみの問題」ではない。

こういった課題は、今までの公共交通だけでは、解決が難しい。

■【自家用有償運送】や【地域のたすけあい】が重要なポイントとなる

# 菊名おでかけバス

## 住民がつくるくらしの足 横浜市港北区

毎週火曜日 6便/1日運行中 \*町内会の応援を受け会員制で運行  
\*車両は、地域の人が提供】 \*住民による運営、運行管理、運転・添乗

民生委員主催のふれあい昼食会の送迎や、さくらまつり開催時に町内会の要望から「お花見バス」運行。地域のお散歩企画も開催。



## 住民がつくるくらしの足 厚木市森の里

- \* 月・水・金 9:30-16:30 8便/1日
- \* 自治会OBが地域の課題解決のために集まった。
- \* クルマは市から貸与されて厚木市との協働事業としてスタートし、現在は自主事業。会員制
- \* 団体としての草刈などの事業剰余を運行に関する経費としている。無償運送。

\* 地域の困りごとの相談 → 新たな事業として発展  
(簡単な家財の修理、家の片付け、庭仕事など)



## 住民がつくるくらしの足 大和市

- \* 月-金 18便／1日運行中 \* H22年4月運行開始(準備期間H20年-22年)
- \* 1日10便→現在は1日18便運行、1周約9km \* 車両は市より貸与(保険含む)
- \* 住民が運行管理、運転・添乗を分担 \* 市との協働事業、登録を要さない無償運送



# 住民がつくるくらしの足 相模原市

～「ついでにちょっと乗っていきなよ」サポート～

- 社会福祉協議会がバックアップして地域の無償のボランティア送迎を組織化

## 地域の課題

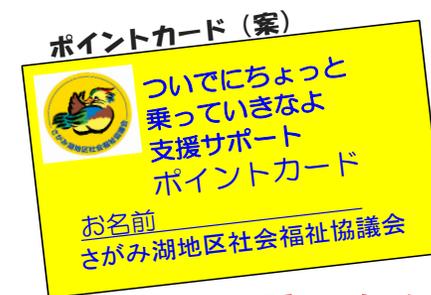
- 外出の不便さで特に日常の買い物が悩み
- 顔見知りのご近所で自家用車を使った買い物支援は行われている

## とはいえ現状は…

- 個人的にお手伝いを声掛けしても遠慮されてしまう
- 頼むほうもお礼とかを考えて気が重い

■ 豊かなたすけあいを仕組みにしよう！

■ 頼まれる方も〔無理〕をしないでいい仕組みが、  
お互い気兼ねなく、長続きする



乗ったら印！ポイントが  
たまると地域でガソリンと  
交換可能になる

地域の課題は一様ではない、その地域の「better」を見つける

# 協働でつくる住民参加型の「移動支援」



例えば

- デイ送迎空き時間の車両活用  
ミニデイやサロン送迎  
地域との連携・お買い物支援バス



- 逗子市のある自治会では、特養の地域貢献で坂の多い地域のお買い物の一助となっている。週2日、地域のスーパーから、ご自宅の玄関まで。運転は特養職員、添乗は自治会。

# 協働でつくる住民参加型の「移動支援」

掲載号：2014年12月19日号

## 例えば

川崎市の特養では、2010年より  
デイサービスの空車両の活用が  
始まっている。

車両の提供と利用のコーディネート  
は特養。

運転は地域の住民ボランティア  
グループ。

高齢者の集うミニサロンの送迎や  
障がい者のサロン送迎も行っ  
ている。

## 「空き福祉車両」で送迎支援 社会

あさお運転ボランティア

[ツイート](#) [いいね! 0](#) [シェア](#) [G+1](#) [0](#)

麻生区内の福祉施設などで  
空いている福祉車両を活用  
し、「ふれあいサロン」など  
の高齢者が定期的集い交流  
する場へ高齢者の無償送迎を  
行う「人とサロンをつなぐ移  
送推進協議会」一。このほ  
ど、特養職員や民生委員など  
からなる同協議会のメンバー  
は「あさお運転ボランティア  
CAP (connect area and people)」と自ら名付



送迎へ出発するメンバーら

## ■活動は地域の合意形成から始まった

---

\*\* 大和市 地域と市との協働「のりあい」 \*\*

# ワークショップ①

第1回  
3/28

1) 大和市の地域交通の現状を知る

2) コミュニティバスがあったなら～理想のバスルートを考える～

①グループごとに自分たちの地域に「本当に役立つコミュニティバス」を考えながら、ルートの提案をしました。

—感想カードから—

●こういう場を作ってもらって、バス運行のきっかけが出来て、先が見えてきたかなあとと思います。



# ワークショップ②

第2回  
5/16

- 1) バスルート案を体験し検討する
- 2) 運行試案に対する意見を出し合う



ルートを実際にバスで回り、  
問題点を出し合いました。

—感想カードから—

- 今日バスに乗って回ったことで、  
個人が集まってもどうにも  
ならないと思った。各自治会に  
もっと応援をたのまないと。
- もっと皆さんが協力しないと、  
難しいことだと思った。
- ほかの地域の事例を聞きたい!

費用対効果 採算性を考える

A案	1日あたりの本数が少ないので 運行日は多く設定	B案	本数が多い分、 運行日を控えて採算性を保つ
○運行日	月～金の週5日	○運行日	月・水・金の週3日
○本数	午前午後各2便（9:00と14:00は 「相模大塚」に行く便ということも可）	○本数	午前午後各4便（10:00と15:00は 「相模大塚」に行く便ということも可）
○車種	細い道も通行可能な10人乗りのバン	○車種	細い道も通行可能な10人乗りのバン
○距離	循環部分1周5.3km 相模大塚の往復4km	○距離	循環部分1周4.6km 相模大塚への往復5.8km



Aを選んで：12票



Bを選んで：2票

# ワークショップ最終回の課題は「参加を広げる」

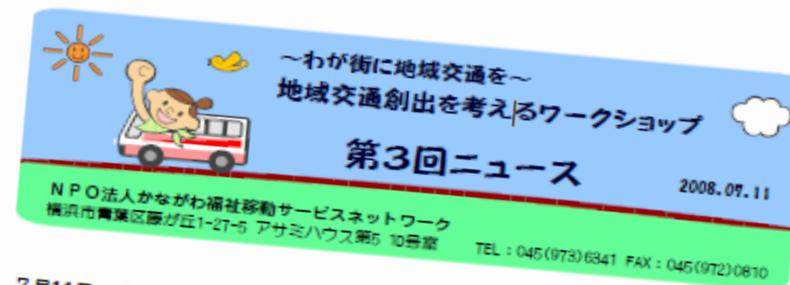
## 目標は

### ●大勢の地域住民に参加してもらうこと

今まで参加の少なかった地域に再度声かけ  
参加住民の熱意と手渡しの情報(ニュース)が  
反響を呼んだ (40名を超える参加)

### ●自治会長の協力を得て、 もっと多くの住民に知らせること

自治会連合の会議で活動を知らせた  
反対意見もあったが、賛同を得て、  
自治会長らのワークショップへの  
参加につながった



7月11日、「第3回地域交通創出を考えるワークショップ」を開催しました。40名を超える方々にお集まりいただき、この地域でのコミュニティバスの運営について検討しました。最初に、野川南台コミュニティバスのヒアリングの報告を参加者の方にしていただきました。まず野川南台方式でこの地域でコミュニティバスを走らせた場合の試算を出し、その印象を廣播アンケートでお聞きしました。次にコミュニティバスを実現するためには、まず何をすればいいのかをグループで話し合いました。そして年間に必要な費用を想定し、どのように費用を捻出できるかのアイデアを出し合いました。最後にグループ案を発表し、今後の進め方を議論しました。会場から「引き続き、コミュニティバスの検討を継続したい」という意見が出され、地域交通を作る方向で議論を進めていくことが合意されました。今回のワークショップは、たった3回の予定で開催しましたが、3回目の話し合いの盛り上がりは、すばらしい内容であったと思います。地域交通の問題は、今や全国的に重要な課題として注目されると同時に、地域コミュニティの課題を住民自身で解決し得る問題として、地域自治の世界へと広がる入り口のような役割を持ち始めていると思います。今回のワークショップがきっかけとなり、全国でも注目を集めるような成果に結実していくことができるようこれからもお手伝いさせていただきたいと思っています。

#### 第3回プログラム

- 1 はじめに
- 2 コミュニティバス運営の事例紹介
- 3 この地区でバスを運営するならば…
- 4 実現のためにすべきことを考える
- 5 予算確保のアイデアを考える
- 6 グループ案の発表
- 7 実現に向けた課題を全体で確認
- 8 まとめ



#### ～全体の流れ～

- 1 2008.3.28(金)  
1) 大和市の地域交通の現状を知る  
2) コミュニティバスがあったら～理想のバスルートを考える～
- 2 2008.5.16(金)  
1) バスルート案を体験し検討する  
2) 運行試案に対する意見を出し合う
- 3 2008.7.11(金)  
1) バス運行の事例に学ぶ  
2) バスの運行を実現する、この地域での方法を考える

# ワークショップ③

第3回  
7/11

- 1) バス運行の事例に学ぶ
- 2) バスの運行を実現する、この地域での方法を考える

川崎市の住民運営・運行の例にならって、試算してみた。  
より具体的に、自分の問題として考えてみると、議論が活発になってきた。

週5回 1日4便 (年間261日運行)	合計 1,968,720円	週3日 1日8便 (年間156日運行)	合計 1,536,840円
①人件費（運転手と事務員） （運転者3,000円＋事務員1,000円）×261日	1,044,000円	①人件費（運転者と事務員） （運転者3,000円＋事務員1,000円）×156日	624,000円
②ガソリン代 ※2便は相模大塚へ （5km×4回）＋（相模大塚1往復4km×2回） ＝28km/日（約14L） 14L×180円＝2,520円/日 2,520円×261日	657,720円	②ガソリン代 ※2便は相模大塚へ （5km×8回）＋（相模大塚1往復4km×2回） ＝48km/日（約23L） 23L×180円＝4,140円/日 4,140円×156日	645,840円
③自動車保険（任意保険）	127,000円	③自動車保険（任意保険）	127,000円
④車両維持費 維持整備費100,000円＋車検積立：40,000円	140,000円	④車両維持費 維持整備費100,000円＋車検積立：40,000円	140,000円



できるはずない,から  
できるかもしれない,へ

## 準備会の組織化と住民への周知

目指したのは、参加「100人」  
各自治会で目標数を定め、人集めを推進

自治会長、準備会メンバーからも声かけが広がった  
試乗した人から人への声かけ

### ● 136人の参加

活動経緯・市の支援

試乗の案内・運行にかかる経費

法律的な課題。

＝おおぜいで共有することができた



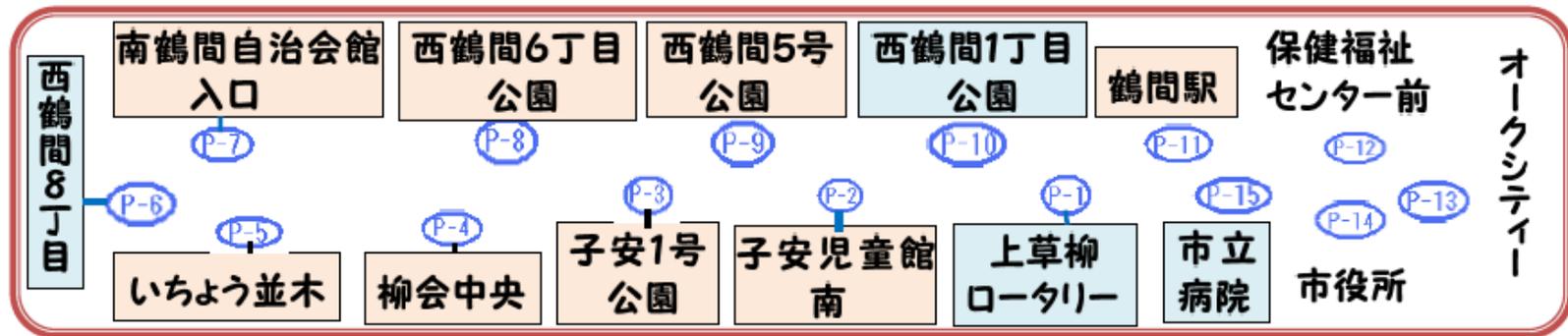
# 第1回試運行

西鶴間 上草柳

試運行します



期間 6月29日(月)~7月3日(金)



P-1	P-2	P-3	P-4	P-5	P-6	P-7	P-8	P-9	P-10	P-11	P-12	P-13	P-14	P-15	P-1
8:00	8:02	8:03	8:05	8:06	8:12	8:14	8:16	8:18	8:21	8:22	8:25	8:26	8:31	8:33	8:40

45分おきに、9回巡回します。自由にご利用下さい。

※問い合わせ 滝沢 (乗合バス運行準備会会長) 046-275-0031  
三澤 (西部自治会連合会長) 046-275-0203

# 試運行の様子

そして、2010年4月 市との協働事業としてスタート



- ・ 5日間で310人が利用した。
- ・ 15か所の乗降場所（上写真）
- ・ 準備を進める中で、準備会メンバーの協力体制が強まった。
- ・ 課題は事務局機能      ・ 市民主体を貫いた。→協働事業の申請へ

# 住民主体・住民参加をつくる

協力の輪を地域に広げ、  
運営する力を育てる

## ■ 試運行に至るまでの準備・実施

3回の試運行と課題の分析

## ■ かかる費用のこと、運行のための人員・・・

具体的になればなるほど、議論は白熱する

- ・ 運行準備会(月1回=定期)と議案調整会議
- ・ 目的、果たす役割など理念の確認は重要
- ・ それぞれの自治会へ協力金の説明

- ・ 運転研修、運行マニュアルづくり

■ 無関心だった地域のリーダーが「私たちの町の・・・」という所有感をもって話し始めた

## 試運行の様子



# 「のりあい」 5年間の実績

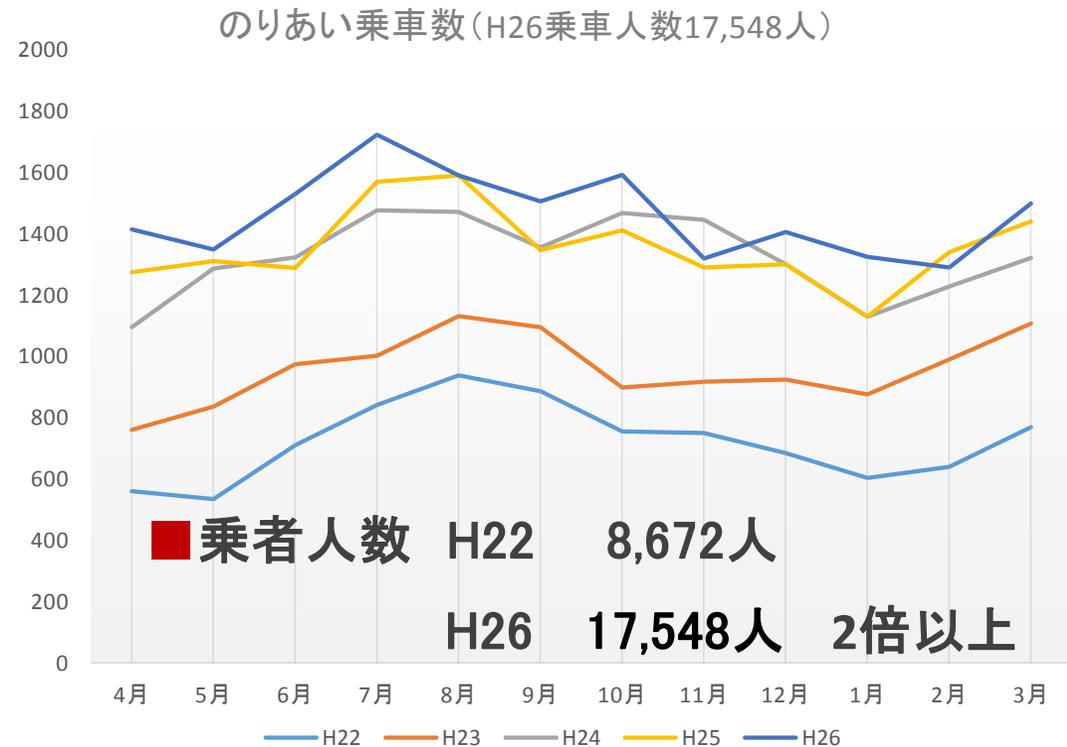
## ■さまざまな波及効果（まちづくり）

● いろいろと会話が出来てうれしい。一人暮らしだと毎日そんなに話す時間がないから。

● のりあいに乗って外出できなかつたら、きっともう歩けなくなっていると思う。今はお買い物もおしゃべりもできて本当にありがたい。

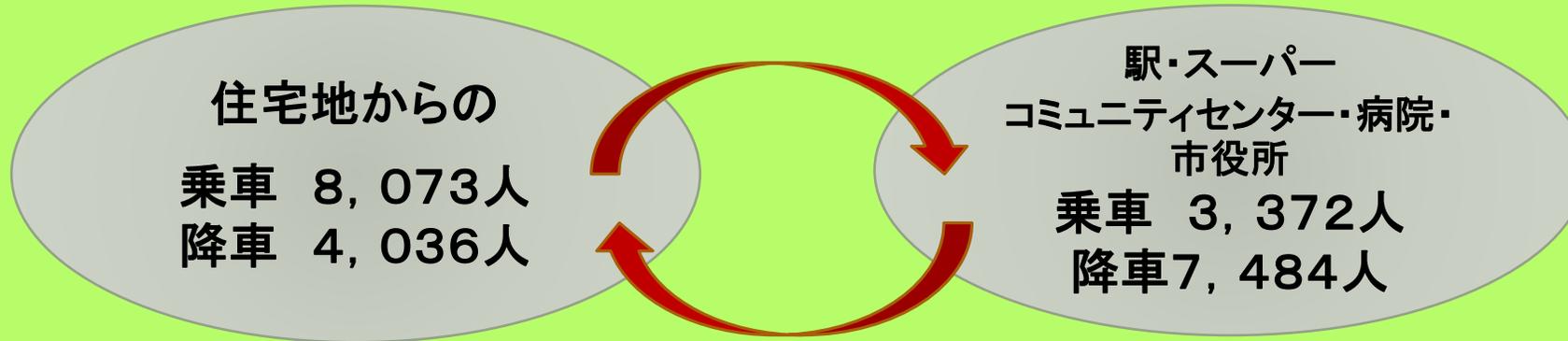
● 高齢の方の重たそうな荷物、同乗の方が「持って行ってあげますよ」と家のそばまで。

● 妊婦さんが乗って車内は自然と会話が始まる。みな祝福！世代の違う人がすぐに打ち解けられるのも「のりあい」の特長。



# くらしの足は「のりあい」だけでは完結しない

H23年度 11,520人(乗降者数)



■ 外出した人の約半数は「のりあい」以外の方法で自宅に帰っていることがわかる。

➡ 他の交通モード(徒歩、タクシーなど)の活性化にもつながっている

おでかけは人を元気にする

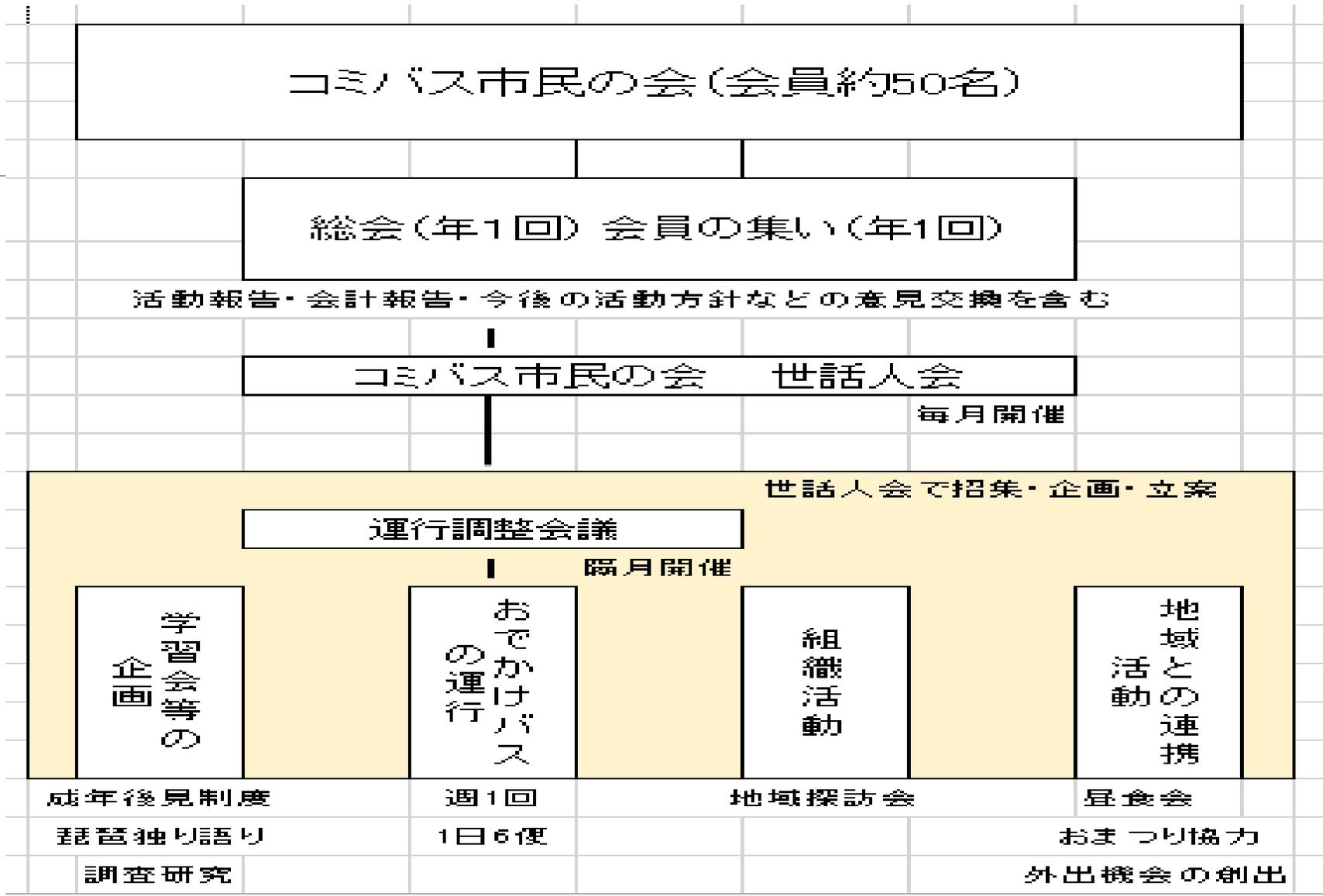
# 菊名おでかけバス

■「くらしの足」から「コミュニティづくり」へ

\*\* 横浜市 菊名おでかけバス \*\*

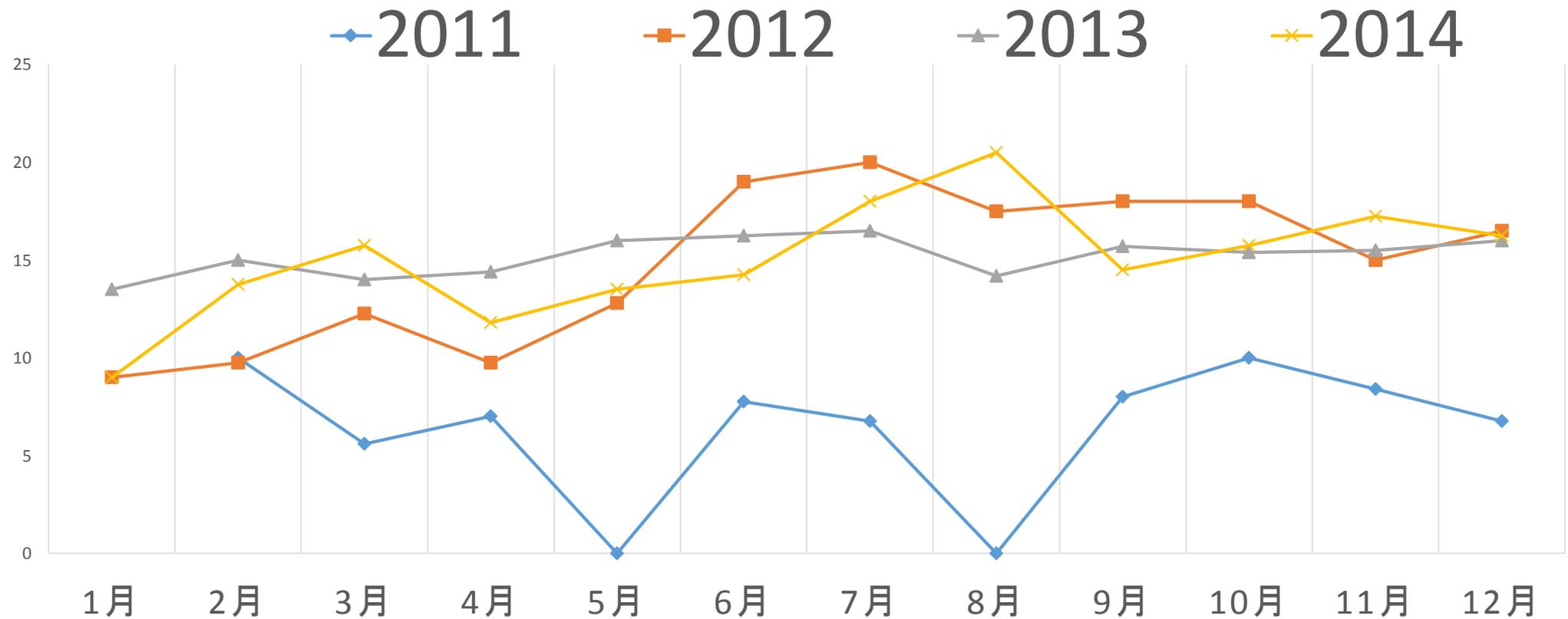


# 組織図



# 菊名おでかけバス 運行実績

## 乗車人数平均の推移



## 2015年1月から6月の運行実績

	運行日数	乗車人数	1日の乗車人数
2011年	39	388	8.1人
2012年	51	752	14.7人
2013年	50	757	15.14人
2014年	49.5	761	15.37人
1-6月	24.5	332	13.63人
7-12月	25	427	17.08人
2015年1-6月	26	425	15.95人

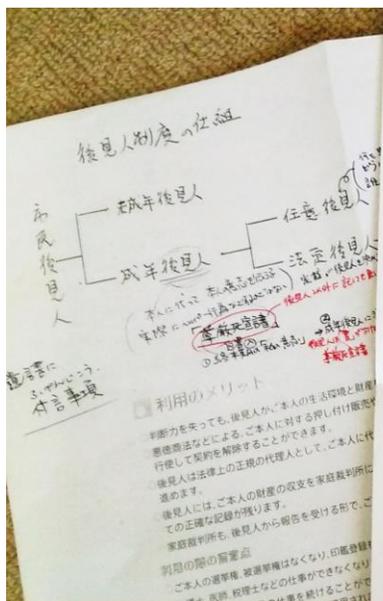
2016年に入ってから会員が増え、現在では1日30人を超える利用がある。

# 活動の様子

週1回の運行ですが地域の中では「公共」になりつつあります。



# おでかけバス こんなことも① 運行に加えて



成年後見制度の学習会

会員集会・琵琶の語りを聴く会

# おでかけバス      こんなことも ②



自治会の希望で一ふれあい昼食会や敬老会の送迎

# 2015年初めて取り組んだ「お花見バス」



自治会の希望で—おまつりの企画の1つとして

# 地域探訪会 小さなことも③

鶴見花木園を散策  
そしてランチ



# 地域探訪会 こんなことも③



## 地域の歴史の勉強会

おでかけバスの会員も多数参加  
80代の方の「学ぶ気持ち」に感激！

# 2015年の活動

- 1 / 8 **第8回おでかけバスの集い** (錦が丘町会館)
- 4 / 7 錦が丘町会さくらまつり さくらバス運行  
らくらく市 参加
- 5 / 1 7 ふれあい昼食会送迎 (⇔大豆戸地域ケアプラザ)
- 5 / 2 1 **第9回おでかけバスの集い** (錦が丘町会館)
- 7 / 2 3 敬老会送迎 (錦が丘町会⇔港北公会堂)
- 9 / 2 1 ミニらくらく市 (港北区図書館前)
- 1 0 / 1 8 ふれあい昼食会送迎 (⇔大豆戸地域ケアプラザ)
- 1 0 / 2 9 **第二回地域探訪会**
- 1 1 / 1 9 子育てフォーラム送迎サポート (⇔港北公会堂)

地域の中での連携が広がっている。そして、化学反応を起こせるか？！

# 住民参加をどうつくるか

---

- 地域発意であること

自分たちで方針を決め、計画を立ててきたことは積極的に取り組める。  
誰か(特に自治体など)が決めて、お膳立てしてもらったことには不満が  
生まれることも多い。

- 一緒に考える姿勢

とはいえ、住民だけでは具体化することは難しい。  
住民ニーズと、実現のための資源(あるときは、交通事業者、また、情報)  
とをマッチングさせるための汗をかくのは誰が担うか。【協働】

# 社会参加と介護予防効果の関係について

スポーツ関係・ボランティア・趣味関係のグループ等への社会参加の割合が高い地域ほど、転倒や認知症やうつ病のリスクが低い傾向がみられる。

## 調査方法

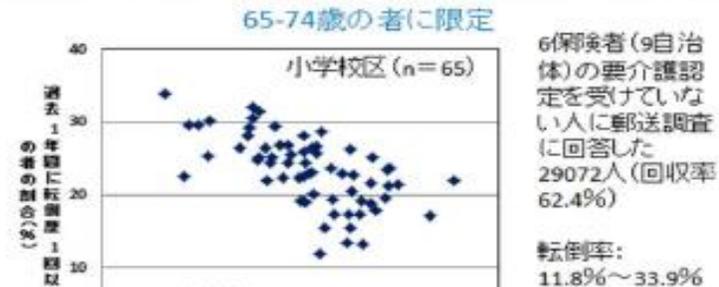
2010年8月～2012年1月にかけて、北海道、東北、関東、東海、関西、中国、九州、沖縄地方に分布する31自治体に居住する高齢者のうち、要介護認定を受けていない高齢者169,201人を対象に、郵送調査(一部の自治体は訪問調査)を実施。  
112,123人から回答。  
(回収率66.3%)

【研究デザインと分析方法】  
研究デザイン:横断研究  
分析方法:地域相関分析

JAGES(プロジェクト)

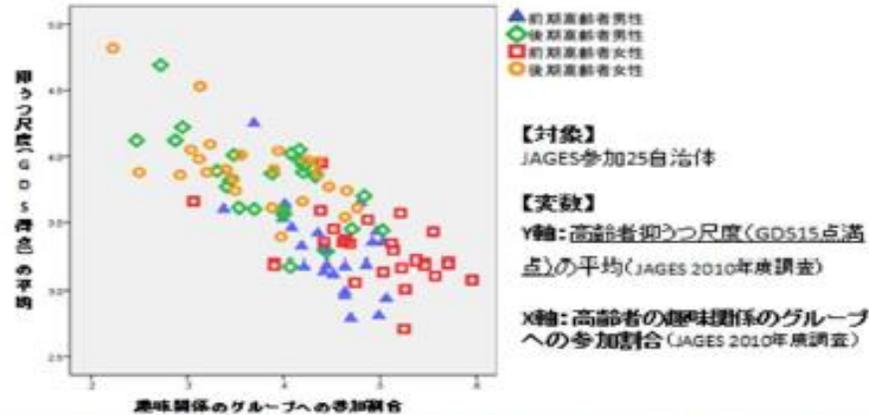


スポーツ組織への参加割合が高い地域ほど、過去1年間に転倒したことがある前期高齢者が少ない相関が認められた。



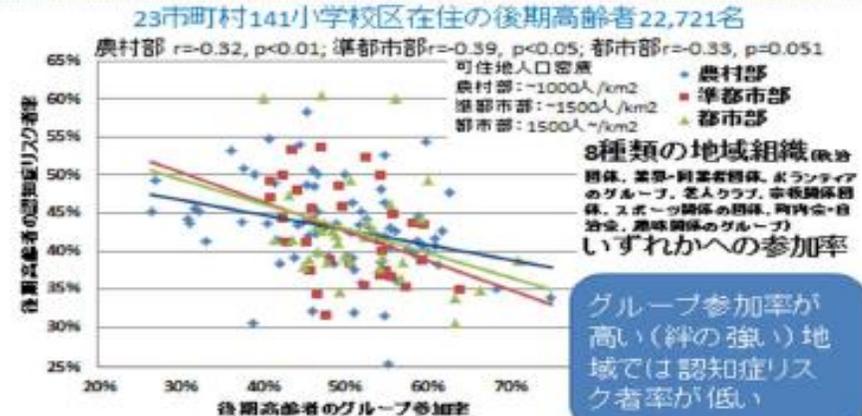
外出・社会参加は、これからの地域づくりのキーワード

趣味関係のグループへの参加割合が高い地域ほど、うつ病得点(低いほど良い)の平均点が低い相関が認められた。



図表については、厚生労働科学研究班(研究代表者:近藤克則氏)からの提供

ボランティアグループ等の地域組織への参加割合が高い地域ほど、認知症リスクを有する後期高齢者の割合が少ない相関が認められた。



グループ参加率が高い(絆の強い)地域では認知症リスク率が低い

ご清聴 ありがとうございます